

# 市場拡大を続ける機能性表示食品の届出動向と 王者ファンケルと組むキリン

—VALUENEX 技術トレンドレポート—

## 1. 拡大を続ける機能性表示食品市場

機能性表示食品の市場拡大が止まらない。富士経済の調査<sup>1)</sup>によると、2015年の制度発足から4年となる2018年は前年比23.7%増となる2,420億円の市場規模となっており、2019年も更に拡大すると予想されている。市場拡大の背景には、健康志向の高まる消費者が新たな機能性訴求を受け入れ始めたことや、既存の大型ブランドにおいて機能性表示食品への転換が進んだことが挙げられている<sup>2)</sup>。更に、同じ健康食品の中でも先行して登場した特定保健用食品が国の審査を必要としていることから、開発費を抑えられる機能性表示食品へシフトしたことも指摘されている<sup>3)</sup>。

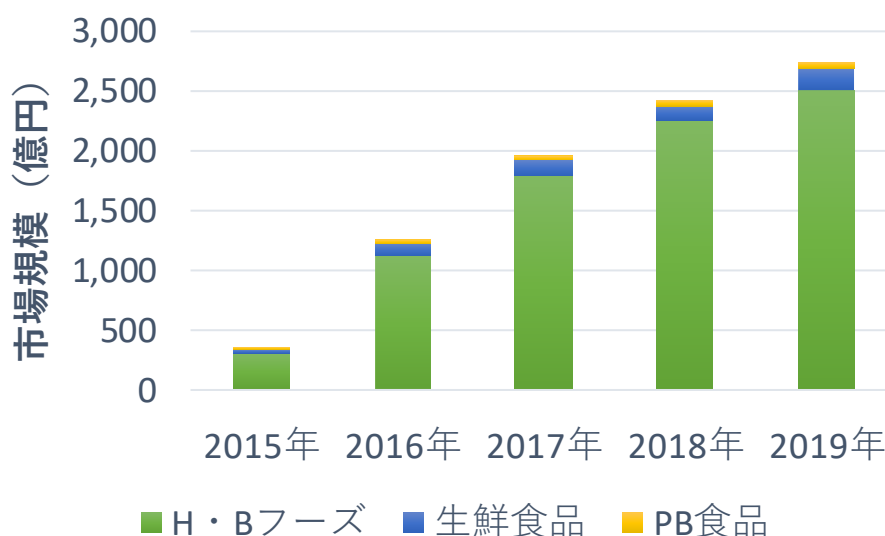


図1. 機能性表示食品の市場規模推移

※2018年は見込み、2019年は予測。

(富士経済の調査<sup>1)</sup>を基に作成)

## 2. 届出情報にみる機能性表示食品の動向 - 2016年に効果の種類が拡大するも近年は開発が一巡か

市場拡大を続ける機能性表示食品だが、投入される商品にはどのようなトレンドがあるのだろうか。ここでは、機能性表示食品に関する消費者庁の公開情報をまとめた「機能性表示食品データベース」<sup>4)</sup>に収録されている届出情報2,287件(届出日2015/4/11~2019/7/3)を分析し、機能性の観点から届出情報を分類・可視化することでその動向を探った。分析には当社が提供する汎用文書情報分析ツール DocRadar を用い、「届出効果(略)」を分析対象とした。

「届出効果（略）」には、届出された機能性表示食品の効果が記載されており、例えば「体脂肪を減らす」、「血圧を低下させる」などがある。これらには各社各様の表現が使われており、効果によって統一されていない。そのため、効果ごとの届出数やその推移、企業別の内訳などを把握することは容易ではない。また、複数の効果をうたう商品の登場もみられ、単一の効果による商品の分類自体が全体の傾向を表しづらくなりつつある。そこで、テキストデータを解析して類似度を計算し、二次元で可視化できる DocRadat が役に立つ。

届出情報 2,287 件を解析した結果を図 2 に示す。図中の青色の●は 1 件の届出情報を表す。届出情報内の「届出効果（略）」の内容が類似しているほど●同士は近くに配置されている。つまり、●が密集している箇所は同種の効果を有する機能性表示食品が多数届出されていることを意味する。図中の黒い線は同種の効果に関する主要なキーワード（特徴語）が分布する箇所を大まかに囲んだもので、黒の四角形により示されるキーワードが各黒枠内の主な効果を表している。例えば、図中央のやや右側にはダイエット関連の領域が広がっている。これに関連した領域として腸内環境の領域がその上部に位置している。さらにその左側にはアイケア、身体疲労、睡眠、ストレスなどの領域が広がっている。これらの領域は疲労という点で関連があり隣接していると言える。図下側には認知機能・記憶力の領域、左下側には筋力や骨、関節など骨格に関する領域が広がる。

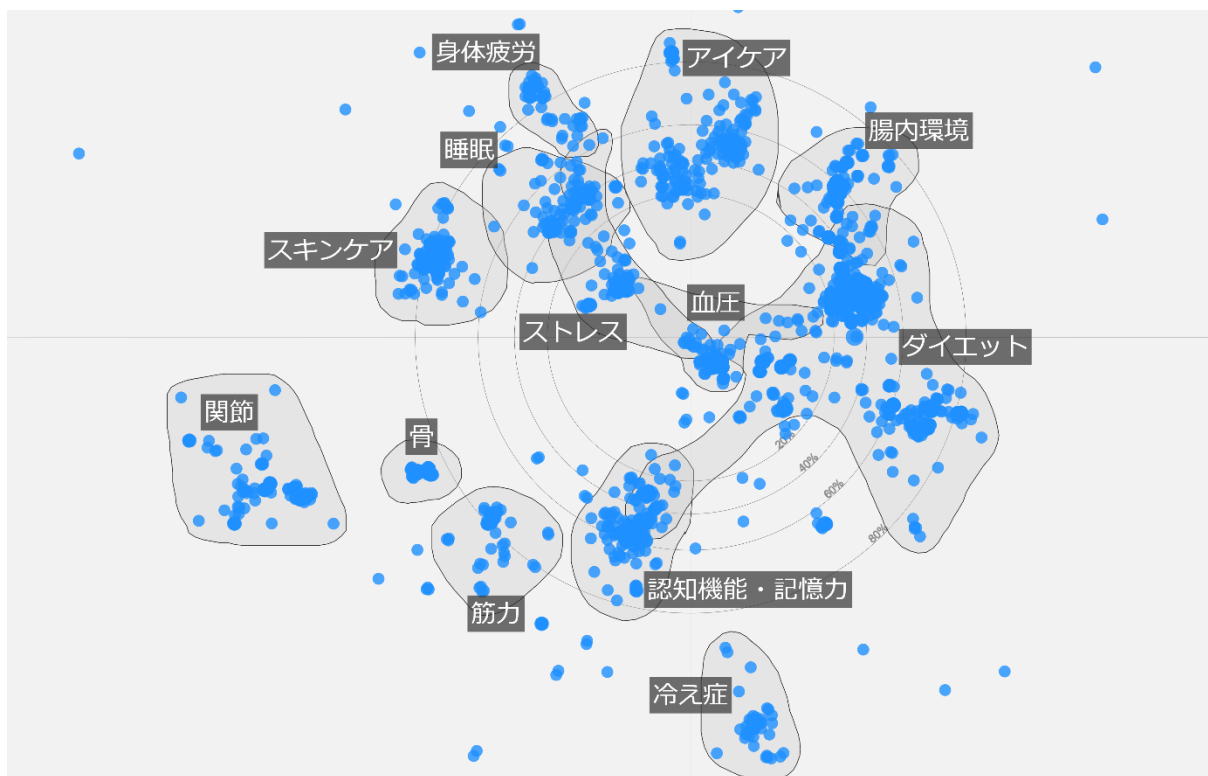


図 2. 機能性表示食品届出情報の俯瞰図

次にトレンドを確認する。全体の届出数は制度開始 2 年目の 2016 年に急増し、その後横ばいに近い傾向が続いたが、2019 年は 7 月初旬時点で 2018 年全体に迫る水準の届出数があり、年間では大幅な増加が見込まれる。

俯瞰図上の年別分布によると、2015 年はダイエットや腸内環境、アイケアなどが中心であったが、2016 年以降、図中下側から左下側にかけての認知機能・記憶力や骨格関連の領域に拡大していることがわかる。特に 2017 年の認知機能・記憶力領域の増加は著しい。ただし、2018 年以降は目立った拡大はなく、主要な効果については開発が一巡したとも言える。

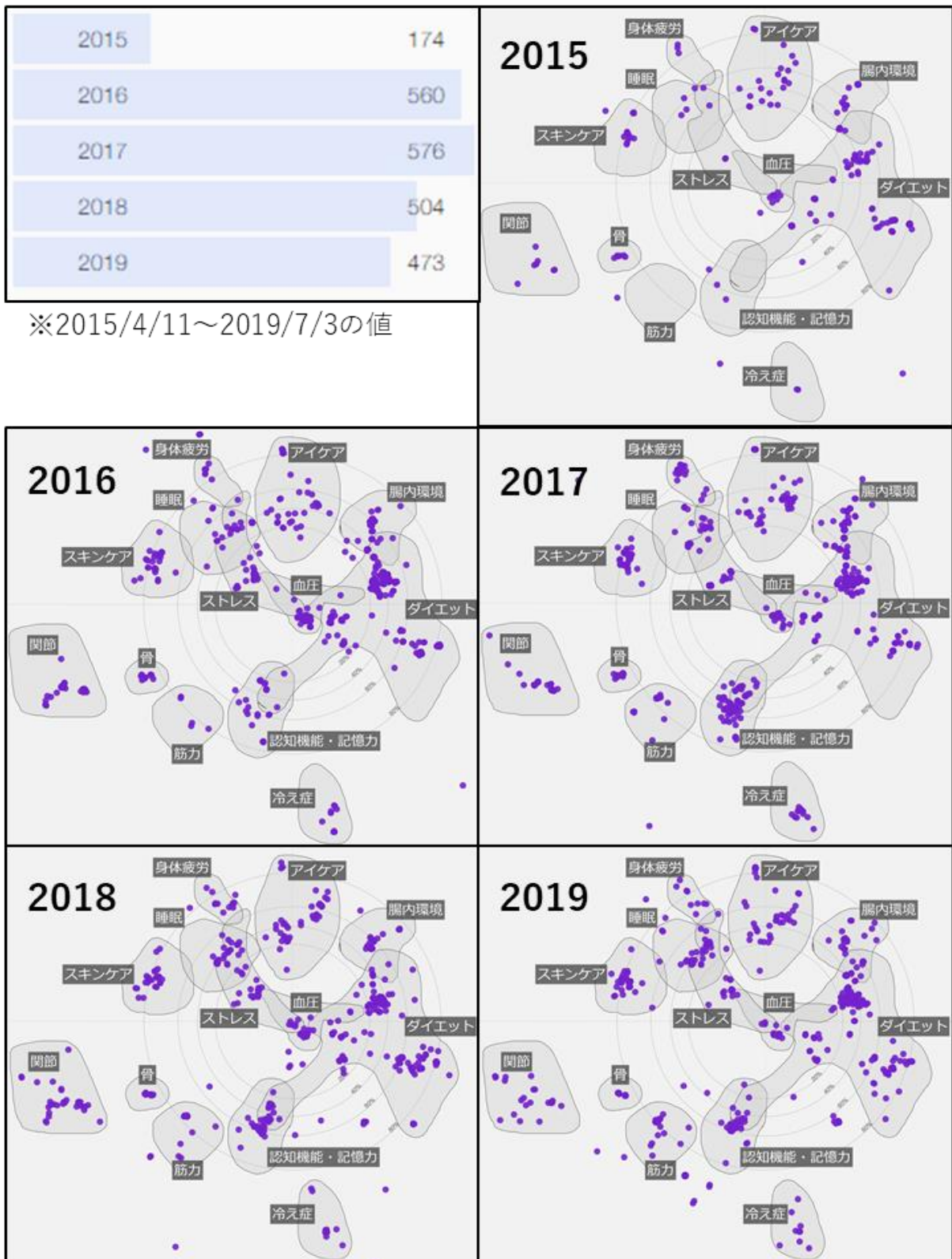


図3. 機能性表示食品の届出数推移と俯瞰図上の年別分布

### 3. 機能性表示食品の王者・ファンケルと組むキリン – グループ全体のラインナップが拡大

2019年8月6日、キリンホールディングス（2503）とファンケル（4921）が資本業務提携を発表した<sup>4</sup>。キリンがファンケルの株式を取得し、持分法適用会社とする。ファンケル創業者池森氏が退任前に経営を託せる会社を探していたことがきっかけとなった。両社はともに目指す方向性が「健康」であるほか、事業領域や強みが補完関係にあることが資本業務提携の理由として挙げられている。このファンケルの強みのひとつとして「生活習慣対策サプリメント」があり、これが正に機能性表示食品に該当する。ファンケルは機能性表示食品 サプリメント市場においてトップシェアを誇り、キリンのグループ全体としての同市場におけるプレゼンスを大幅に向上させるはずである。ここでは、引き続き機能性表示食品の届出情報に基づき、ファンケルを擁するキリングループの商品ラインナップが如何に拡充されるかを確認し、競合との比較を行う。

まずプレーヤー別の届出数を比較する。キリンのグループ各社単体ではキリンビバレッジが12件の届出数がありグループ内では最多だ。しかし、同業のアサヒ飲料は3倍の36件の届出があり、ラインナップに大きな差があると言える。



図4. 届出数上位10社とキリングループの届出数トップ企業の比較

俯瞰図上の分布を確認すると、前述のキリンビバレッジを含むキリングループの届出は俯瞰図右上側のダイエット、アイケア、睡眠などの領域が中心である。これに対しアサヒ飲料を始めとするアサヒグループ（2502）はほぼ全域に渡って分布しており、ラインナップの充実度の差は歴然である（図5）。

ここにファンケルが加わるとどうなるか。俯瞰図によると、ファンケルもアサヒグループと同様に俯瞰図全域に分布しており、キリングループのラインナップを大幅に拡充させると言える（図6）。

なお、キリンに対しファンケルが補完するのは認知機能・記憶力や骨格関連、腸内環境などの領域であるが、これらは両社が資本業務提携を発表した際に掲げた<sup>4</sup>「シナジー創出領域」とも重なる。具体的には「生活習慣病」、「脳機能」、「フレイル」、「リハビリ対策」、「免疫」、「腸内環境」などの分野で共同研究を推進するとされている。これらの領域において、ファンケルの機能性表示食品をベースとしつつ、キリンの技術が投入されることによる

新たな商品展開が期待される。今後の両社の動向に注目したい。

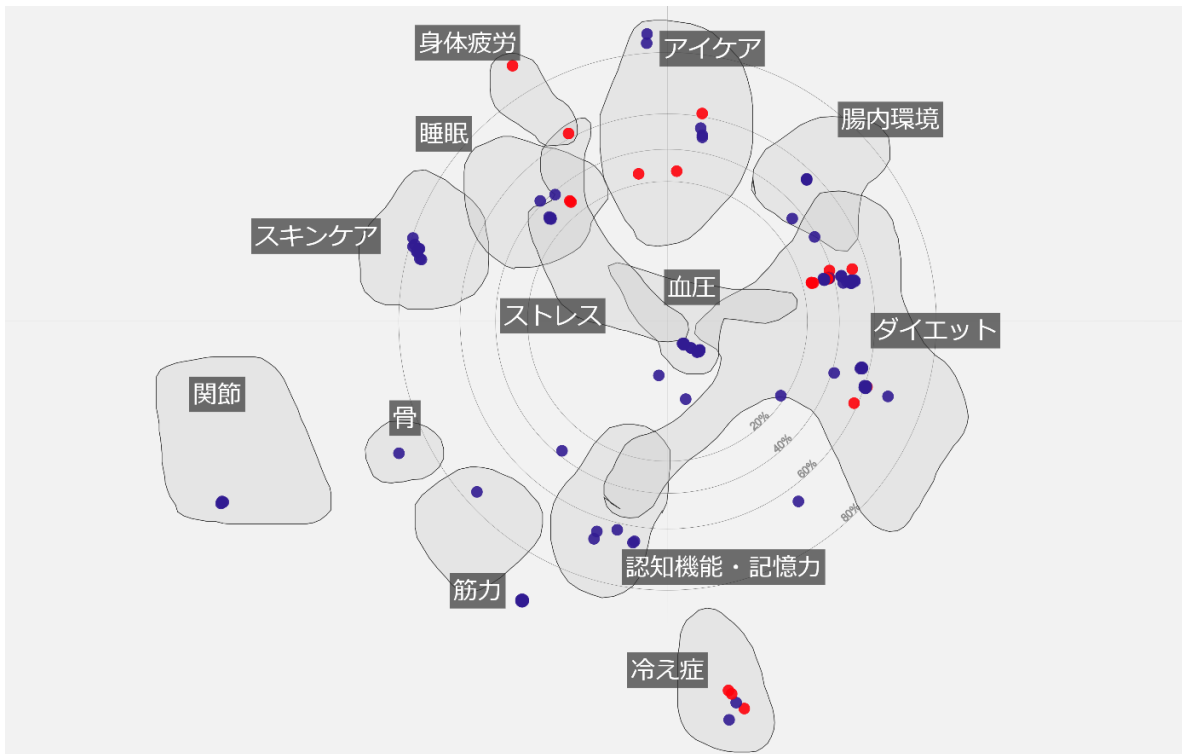


図5. キリングroup (●) とアサヒgroup (●) の分布

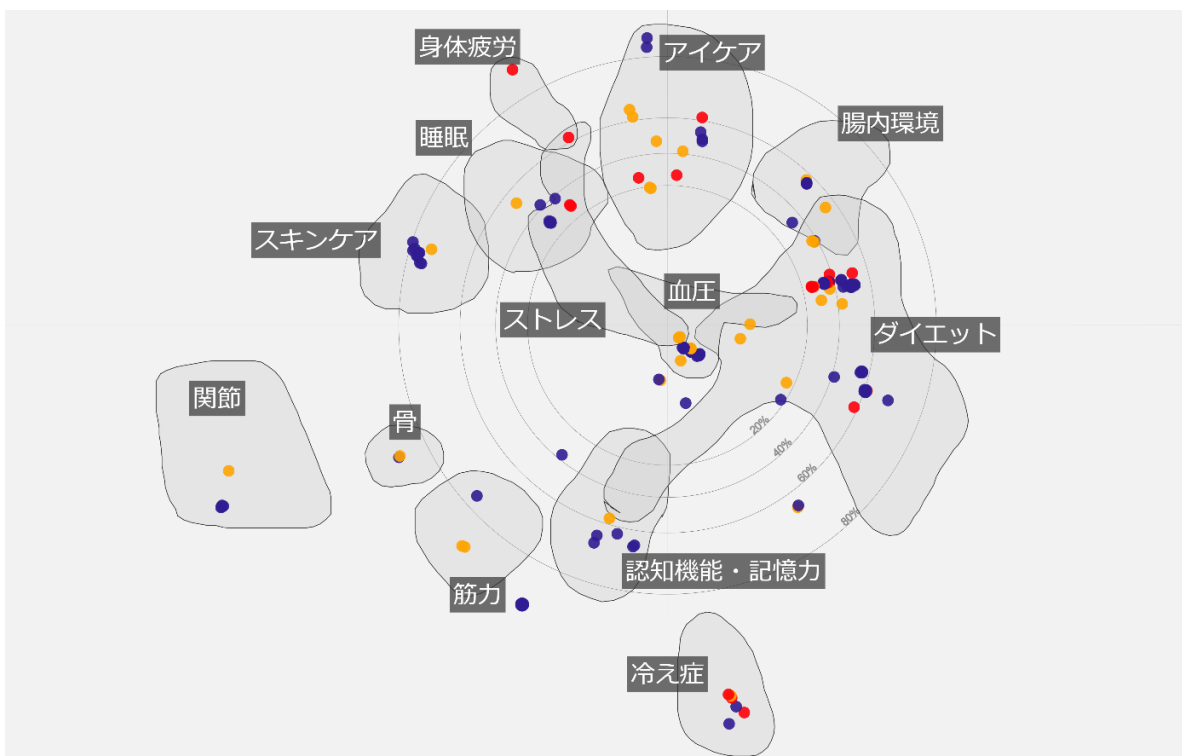


図6. キリングroup (●) とアサヒgroup (●)、及びファンケル (●) の分布

表 グループの定義

グループ	企業
キリングループ	キリンビバレッジ株式会社、キリン株式会社、キリンホールディングス株式会社、麒麟麦酒株式会社、協和発酵バイオ株式会社
アサヒグループ	アサヒ飲料株式会社、アサヒグループ食品株式会社、アサヒビール株式会社、アサヒフードアンドヘルスケア株式会社、株式会社エルビー、アサヒカルピスウェルネス株式会社、カルピス株式会社

<参考文献>

- [1] 富士経済、“拡大続ける機能性表示食品、縮小に転じる特定保健用食品の国内市場を調査”、  
<https://www.fuji-keizai.co.jp/market/19037.html>、(2019/8/15 参照)
- [2] 日本農業新聞、“機能性表示食品 市場急伸 24%増 青果物不作で一時減”、  
<https://www.agrnews.co.jp/p48099.html>、(2019/8/15 参照)
- [3] プラスエイド、“機能性表示食品データベース”、<https://db.plusaid.jp/foods>、(2019/8/14 参照)
- [4] キリンホールディングス株式会社・株式会社ファンケル、“キリンホールディングスおよびファンケルによる資本業務提携について”、<https://pdf.irpocket.com/C2503/hUeO/zApF/fJpI.pdf>

<免責事項>

本情報は、情報の提供を目的としており、投資その他の行動を勧誘することを目的としたものではありません。有価証券その他の取引等に関する最終決定は、お客様ご自身の判断と責任で行って下さい。情報提供元である VALUENEX 株式会社は、本情報を信頼しうる情報をもとに提供しておりますが、その内容に過誤、脱落等ありこれが原因により、または、本情報を利用して行った投資等により、お客様が被った、または、被る可能性のある直接的、間接的、付随的または特別な損害またはその他の損害について、一切責任を負いません。本情報の正確性および信頼性を調査確認することは、VALUENEX 株式会社の債務には含まれておりません。本情報の内容は、VALUENEX 株式会社の事由により変更されることがあります。本情報に関する一切の権利は、VALUENEX 株式会社に帰属します。本情報は、お客様ご自身のためにのみご利用いただくものとし、本情報の全部または一部を方法の如何を問わず、第三者へ提供することは禁止します。

---

VALUENEX 株式会社  
〒116-0002 東京都文京区小日向 4-5-16  
ツインヒルズ茗荷谷  
TEL : 03-6902-9834

\*弊社では ASP サービス「DocRadar」「TechRadar」ならびに技術調査業務を含むコンサルティングサービスを提供しております。

ご関心のある方は下記までご連絡ください。

<問い合わせ先>

[VALUENEX 株式会社 ソリューション事業推進本部](#)

TEL:03-6902-9834

[mail:customer@valuenex.com](mailto:customer@valuenex.com)

<http://www.valuenex.com>

---

20190815 SM